



パソコン上で動かすウインドウズなどの基本ソフト(OS)という考え方さえまだなかった80年代、パソコン雑誌を教科書に、独学でアセンブリ言語を習得してコンピューターの世界に。その経験から「簡単なマイコンと素子を組み合わせるとすごいことが出来ることを子供たちに教えたい」と夢を語ります。手がけている自宅ミニ農園のマイコン制御システムづくりが完成したあかつきには、未来を担う子供たちにパーソナル・コンピューター時代を生き抜く「常識」を伝授するつもりです。

「手の平に乗る数百円程度の小さなマイコンで、いろいろなことが出来る」といいます。

「これからの時代、マイコンを使った自動制御の知識は必須科目。農園作りが完成して一息ついたら、子供たちが自在に動かし、使いこなし、作ることが出来る自動制御の知識を教えたい。マイコン塾のようなものを開きたいですね」と夢を話します。

さらに「ライフワークとして、壮大な世界の歴史CG(コンピューター・グラフィック)のソフトも作りたい」。

コンピューター・プログラミン

グの世界に入ったのは、40歳になってから。
「当時、この世界は年齢も学歴も関係なかった。自分のプログラミング技術は、アカデミックな大学の研究室で学んできた専門家の知識よりも重宝された」そうです。

◇

転居してきたきっかけは、2年前片っ端から読みあさっていた地球温暖化関連の本から。インターネットで「早ければ2013年から2015年ごろには、夏の北極

海から氷が消えてしまう」というニュースを見つけ「食料、電気、物流も、ライフラインはすべて止まってしまふ。そうなったら首都圏では生きられない。財産は何の価値もなくなる」という思いに駆られたからでした。

「北極、南極の水が溶ければ太陽熱の氷面反射がなくなり、海水温の上昇が加速度的に高まる。海水温の加速度的な上昇によって、グリーンランドの厚さ2千メートルの氷河、氷床が一気に底なだれ(全層なだれ)を起こして海に滑り落ち、世界同時に大津波が起きる。北半球が夏の時、グリーンランドの水、北半球が冬の時、南極の水が危ない。それが4、5年は続く」というのです。

「(移住という)判断は間違っているんじゃないか? 飛行機の機内で足が震えました」。

自前のエネルギーシステムを構築するため、自宅に太陽光発電システムを導入しました。まだ設置していないパネル約70枚も確保済み。試行錯誤の炭作り、野菜づくりも進めています。

所有地内の裏山



自宅屋根に設置しているソーラーパネル



炭焼き予定で集めた雑木は大事な資源

出番を待つソーラーパネル群



ビニルハウスの中で製作中の炭焼きがま(長さ10メートル以上)

おおつき みなかつ 大槻 完勝さん コンピューター・プログラマー/14区 ☎82-7451

東京都出身、66歳。慶応大学経済学部卒。20代で脱サラ。府中市内で車の清掃業を起業。その後80年代、初期のパーソナルコンピューティング時代到来とともに、コンピューター・ソフトウェア開発のプログラミング知識を独学で習得。事業の財務処理、アルバイト管理などのソフトを開発しているうち、本格的にフリープログラマーとして独立しました。NTT、ソニー、パナソニック、マイクロソフトなど、大手企業関連の組み込みソフト開発を多く手がけてきました。昨年3月、横浜市内の自宅を処分して町内に転居。